□資料2（基礎資料）
■資料3（ヒアリング）
◇資料3（意識調査）
◆資料3（アンケート）

H28 京の稲作と農地を守るアクションプラン　論点ペーパー

現状

□高齢化等により農家数が減少傾向

□担い手への農地集積が進んでいる

■◇直売等により、米の販路を確保している担い手もいる

米の直接支払交付金が廃止される（H30）

□米価が低迷している

■◇価格がコストに見合わなくなってきている

■◇資金繰りに不安を抱える担い手もいる

□主食用米の生産量が減少している

◇耕作放棄地の増加が懸念される

□京都の酒造業者の要望に応えて、酒造原料米の生産振興を進めてきた

問題点

■◇◆<u>地域を支える法人などの担い手の生産体制整備が不十分</u>

■◇◆直売商品を生産・販売するために必要な、乾燥調製施設等が不足

■◇◆機械・施設の維持管理やメンテナンスの経費が経営を圧迫

■◇<u>京都の米の商品力が不足</u>（京都の米の需要創造ができていない）

◇水田作付維持のためには、米の売り先が拡大せず、困っている担い手もいる

◇酒造好適米は、価格の高い米として有望であるが、需要が伸び悩んでいる

◇酒造業界以外の食品加工業者へ供給される加工用米の結びつきが弱い

論点1

産地における主食用米の流通改善

→「農家の米屋さん」の拡大

論点2

米の6次産業化も見すえた京都の米の消費拡大とブランディング

→「選ばれる"ごはん"」づくり

論点3

地場産業への経済的波及効果と食文化面からも強みを活かす食品加工業への供給拡大

→「結びつき米」の拡大

《参考》

主食用　71,000ﾄﾝ

- 民間流通・米穀業者・直売（推計）57%
- JA系統出荷（推計）21%
- 飯米・縁故米（推計）22%

その他の用途

- 酒造好適米　223ha（祝454ﾄﾝ・五百万石348ﾄﾝなど）
- 加工用米　559ha（京の輝き1,675ﾄﾝ、その他品種）
- 新規需要米　203ha（飼料用米、WCS用稲、米粉用米）
- 種子用（採種）103ha

※数量は㉗全農実績

資料4